

2017年4月1日

JRC2017、3学会と国際医用画像総合展が4月13～16日、 パシフィコ横浜で開催予定

- ・第76回日本医学放射線学会総会（会長：角谷眞澄・信州大）
- ・第73回日本放射線技術学会総会学術大会（大会長：宮地利明・金沢大）
- ・第113回日本医学物理学会学術大会（大会長：野田耕司・放射線医学総合研究所）
- ・国際医用画像総合展（ITEM）

国際医用画像総合展のメインテーマは「極めよう放射線医学、広げよう放射線診療」。

合同企画は、特別講演が2題。中田英寿氏（元サッカー日本代表）がスペシャルトークを行い、平野俊夫氏（量研機構理事長）が「量子医学・医療の将来展望」について語る。

合同シンポジウムは、「放射線医学・診療を極め、広げるために」（放射線医学・診療を極め、広げるために：画像診断の側面から／インターベンショナルラジオロジーを広げる、極める／放射線治療学の側面から他）、「放射線医療に関する国際規格・プロトコール」、「小児画像診断における被ばくの現状と課題」（日本における小児CTの現状と課題／小児整形外科領域における放射線被ばく低減のコツ／小児CTの診断参考レベルから見えてきたこと他）の3題について行われる。

日本医学放射線学会総会では、シンポジウムとして「新たな疾患総整理」「PETによるがんの病態評価と治療戦略への応用」「IgG4 関連疾患の診断」「肝細胞癌の治療戦略」「高精度放射線治療と画像診断」「早期肝細胞癌の画像・病理・臨床」「乳癌の個別化治療時代に対応できる放射線科医を目指して」「救急疾患における画像診断：そこはバント？ ホームラン狙い？」「知っておきたいIVR技術：こんな時あなたの選択は？」などが行われる。

その他、教育講演、診断と治療に分かれた研修医セミナー、さらにコンピュータによるポスター展示 CyPos も国立大ホールマリノロビーで行われ、16日にはJRCアワー2017として、「放射線診療における過剰診療と Choosing Wisely」のテーマについて、「診断・治療・米国の現状・バルカンでの放射線診療の現状」の視点から語られる。

企業開催のランチョンセミナーは、CT・MRI・PACS等の最新動向をテーマに、総計27のセッションで行われる。

以上